

3年間を見通した事前学習・事後学習の工夫・充実

学校内の教育活動だけでは経験できない多様な年齢、立場の人とのかかわり、社会との接点、様々な職業の現場に直接たずさわる機会を得ることは、自らの将来を考えさせるためにも多様な気付きと発見を得ることができる貴重な経験となります。

はじめに

キャリア教育の効果的な導入のために、小学校での取組を把握しよう！

■校区の小学校からの情報収集（1年生からの聞き取りなど）

小学校での活動例

- 1/2成人式を開こう ～大人になるっていいね～ <4年>
- 写真展から社会をのぞこう ～仕事の意味を探ろう～ <5年>
- マイグッドライフ ～夢や希望をもち、努力すること～ <6年>



事前学習 例) 中学校1年生

将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方について考える

取組内容例

- ・職業レディネステストなどを通じた自己の興味・関心の理解の深化
- ・職業人講話（保護者や地域の人々）
- ・職業調べ
- ・家族に「働くこと」についてインタビュー

★ポイント★

具体的な活動を通して、身近な人々の職業や生き方に触れ、自分の将来や仕事を考えることができるようにすることが重要です。

直前の指導 例) 中学校2年生

職場体験のねらいを理解し、自分の課題を明らかにする

取組内容例

- ・これまでの学習の振り返りと体験活動のねらいの確認
- ・体験内容の調査、事前訪問
- ・体験先への連絡や説明会によるねらいの共有
- ・マナーや緊急対応等に関する確認
- ・体験のまとめ方・事後学習の準備

★ポイント★

ねらいや課題を十分に理解させることが大切です。

生徒個々の興味・関心と職場での体験内容等を踏まえ、教師が判断し、体験先を決定するのが適当でしょう。

職場体験活動

保護者や体験先と連携し、生徒

仕事内容例（販売業）と生徒の変容

緊張の1日目

- あいさつ、自己紹介、社内見学
- 緊張、不安、意欲

仕事を覚える2日目

- 品出し、清掃、接客、レジ袋詰め
- 仕事の流れが分かる
- 周囲の大人の立場等が理解できる

仕事に慣れる3日目

- ポップの作成、店内放送
- 分からないことが聞けるようになる
- 自ら進んで行動し、役割を果たすことができる

創意工夫の4日目

- つまずき、失敗、新たな発見

感動の5日目

- 体験先の思いを踏まえた主体的な活動
- 自分や大人を客観的に見つめる
- 達成感を感じる

【5日間の職場体験活動が推奨されるのは・・・？】

- 充実した体験を実践するためには、ある程度の期間が必要です。（緊張の1日目、仕事を覚える2日目、仕事に慣れる3日目、仕事を創意工夫する4日目、感動の5日目）
- 5日間という長さが、生徒の心に変容を生みます。新たな発見や失敗、つまずきなど、これまでにない体験を通して、達成感や満足感を得ることや、自信、自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など、様々な効果が期待できます。
- 職場体験をそのねらいにせまる活動とするためには、特別活動等の時間を精選して時数を確保するとともに、地域の事業所等と連携を図るための市町村教育委員会の支援が必要です。

●北海道の職場体験実施日数はより充実することが求められています。

■職場体験実施日数		
	1日のみ(%)	平均日数
北海道	49.6	1.7
全国	12.5	2.9

1～2日の職場体験では、緊張だけで終わってしまい、新たな発見などを促す職場体験活動のねらいを十分に達成することは難しい。

例) 中学校2年生

をしっかりと見守り、かかわろう

事業所等との連携のポイント

職場体験のねらいを踏まえた活動を充実するためには、体験先となる事業所との連携が不可欠です。

【事前】

- 職場体験のねらいや育てたい力を伝える。
- 学習活動で取り入れてほしいことを伝える。
- この職業の社会における重要性や使命、やりがい、学ぶことや働くことの意義などを生徒に伝えるよう依頼する。



【事後】

- アンケートの協力を依頼する。
- 生徒や保護者の事後の感想や学習意欲、学力などの数値的データによる成果を報告したり、広報で地域に発信したりして、協働の魅力を示す。

職場体験の成果を体験先だけでなく、他の事業所や地域に広く発信することが大切です。

直後の指導 例) 中学校2年生

職場体験活動を振り返り、その意義を考え、学びを共有する

取組内容例

- ・職場体験ノート、記録等のまとめ
- ・生徒・保護者・体験先へのアンケート等による多様な評価
- ・礼状の作成と事後訪問
- ・職場体験報告発表会

★ポイント★

体験から学んだことを文章にまとめたり、発表し合ったりすることで、一人一人に働くことや学ぶことの意義を考えさせるとともに、体験や学びを生徒間で共有化することが大切です。

事後学習 例) 中学校3年

職場体験活動の経験をもとに学習意欲を高め、将来の進路に向けての主体的な学習を進めながら、自分の進路を考え選択していく

取組内容例

- ・中学校卒業後の進路の選択・決定
- ・職業生活を考えた将来設計

★ポイント★

自分なりの将来像を実現するために何をすべきかなど、職場体験活動での学びを自分の将来に向けての学習の意欲付けや進路決定に生かしていくことが重要です。

(6) 高等学校におけるキャリア教育 ～教育活動全体を通じて取り組むポイント～

現実的探索・試行と社会的移行準備の時期におけるキャリア発達上の課題を達成する
キャリア発達のポイント

- 自己理解の深化と自己受容
- 選択基準としての勤労観・職業観の確立
- 将来設計の立案と社会的移行の準備
- 進路の現実吟味と試行的参加

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしく生き方を実現していく（キャリア発達）ことができるよう、PDCAサイクルを大切に教育計画を立案し、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度の育成に教育活動全体を通じて取り組むようにします。

PDCAで見るキャリア教育

Plan
計画

学校をとりまく地域の環境や生徒の現状を把握し、目標を立て、指導計画をつくる。

1. 実態をつかむ
地域や生徒の現状を把握する。
2. 目標を立てる
目指すべき生徒の姿(目標)を明確にする。
3. 課題を設定する
課題を明確にする。
4. 指導計画をつくる
全体計画、年間計画を作成する。

★指導計画の作成のポイント★

- ・キャリア教育の目標・課題の明示
- ・学年の重点目標等の設定、学年間の系統性の確保
- ・各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動
その他学校での教育活動全体とのつながり
- ・評価方法の明示、改善策の検討方法、組織等の明示

Do
実践

教育活動を展開し、フォローアップや修正を行う。

1. 洗い出す
キャリア教育の「断片」を見いだす。
★キャリア教育の「断片」とは？★
キャリア教育としての価値が十分認識されず、相互の関係性や系統性も確保されてこなかった教育活動のこと
2. つなぐ
整理された「断片」をつなぎ合わせ、体系的・系統的に指導する。
3. 検討する
自校ならではのキャリア教育を目指す。
4. 実践する
教育活動全体を通して意図的な指導を実践する。

それぞれの教科等の特質を生かす。フォローアップ修正を加える。柔軟に個別支援の機会をとらえる。

Action
改善

導き出された新たな課題をキャリア教育の視点から見直し、次の計画に生かす。

- 指導に生かす
 - ・指導計画の修正
- 現在行われている学校の取組の一つ一つを点検し、見直していく。
- ・個別支援・指導の工夫
- 評価結果を個別に検討し、それぞれの状況を把握した上で、個に応じた対応を工夫する。
- 組織に生かす
 - ・中核組織の運営(校内組織のあり方を見直す)
 - ・校内研修の充実
- 地域に生かす
 - ・異校種や地域社会との連携

Check
評価

取組の目的に応じて生徒の変化を捉える。

1. 何を
生徒の変化を把握する。
2. いつ
取組前後に実施する。
3. どのように
目的や地域・学校の特色、生徒の実態に応じた「ものさし」(評価指標)を作る。
4. 適切な評価のために包括的な評価を目指す。

目的に応じた「ものさし」(評価指標)、学校や生徒の実態に応じた「ものさし」を設定する。

- ・教員の印象
- ・生徒の学習態度、生活態度の変化
- ・生徒の自己評価や相互評価
- ・ポートフォリオを活用した評価

確かな成長を促すインターンシップを推進しましょう



- 自らの進路選択について主体的に取り組むことができる。
- 体験を通して日々の学習の意義を再確認し、学習意欲の向上を図ることができる。
- 多くの職業人と触れ合うことで異世代とのコミュニケーションを図ることができる。
- 仕事をする上で必要となる知識、技術、技能等について考えることができる。
- マナーや言葉遣いなどの大切さについて、認識を深めることができる。



インターンシップを効果的に展開するためのポイント

教育課程への適切な位置付けを図る

- ① 総合的な学習の時間で実施
- ② 特別活動で実施
- ③ 「産業社会と人間」等の教科・科目で実施
- ④ 学校外における学修等の単位認定による実施

成功するインターンシップのために

- ① その場限りのイベントにしない計画性と連続性。充実した事前学習の実施
- ② 体験先での業務内容に必要な職業能力と学校での学習活動等を関連付け
- ③ 勤労観や職業観の変化、自己の内面の変化等に留意した事後指導の充実

体験先の開拓はどうやって進めるのか？

- ① 生徒の進路希望を把握
- ② 市区町村の関係部署や地域の経済団体（商工会議所など）、同窓会やPTA等との連携も効果的
- ③ ハローワークやジョブカフェには、インターンシップ受入事業所や実施に係わる情報が豊富
- ④ 地域産業の特色などから産業・業種別の体験先リストを作成

どんな準備が必要なのか？

- ① 一過性の行事にならないように3年間のキャリア教育計画への位置付けが必要
- ② インターンシップの意義や参加目的などを確認し、体験先の決定を指導
- ③ 体験先および体験内容についての調査。体験期間中のシミュレーションを入念に
- ④ 外部講師による講演会の実施により、具体性と緊張感を

インターンシップの実施

どんな振り返りが大事なのか？

- ① 礼状作成や事後訪問などにより、体験先への感謝の気持ちを伝達
- ② 日誌等の記録のまとめ、体験全体を振り返る感想文などの作成
- ③ 発表活動による情報の共有化や比較を通じての、体験のより深い振り返り
- ④ それに対するコメントやキャリア・カウンセリングを通じて、体験を内在化
- ⑤ 体験した事業所の方々や保護者を招へいしての発表会の実施など地域社会との連携を

どのように発展的継続できるのか？

- ① 体験先（事業所等）からのアドバイスや提言への丁寧な対応
- ② 体験先との緊密な情報交換により活動を継続できる信頼関係を構築
- ③ 生徒の体験活動や学校の指導体制に対する多様な視点からの評価
- ④ 成果と課題の検証、取組の総括と次年度への引継ぎ

効果的なインターンシップに向けての改善

★インターンシップ体験の感想★

「病院でリハビリの仕事を経験・見学し、仕事の深さを知り、改めて看護師になりたいという思いが強くなりました。」

「商店での販売実習を行いました。とても緊張して戸惑いました。仕事の厳しさと充実感を学びました。」

「測量機器（レベル）を使用して、柱にばか棒（ばか定規）をあてて等高点の測設を行ない、測量の大変さを実感しました。」

「販売の仕事で商品の場所や価格を覚えるなど、周りの従業員の方々に迷惑を掛けないように頑張りました。」

「花卉の出荷の準備をしました。輸送中の傷みを考えながら、出荷までの梱包を一人で行いました。自分の責任を自覚しました。」

「老人福祉施設の利用者の方々とのコミュニケーションを中心とした実習をしました。相手の立場で物事を考えることができました。」

(7) 職場体験を実施するに当たっての健康管理や安全確保上の配慮

職場体験は、学校を離れて行う学習活動であるため、生徒一人一人の健康状態を把握するとともに健康管理に十分配慮することが必要です。また、生徒、教職員、外部の指導者・協力者、受入先の職員等の安全の確保に常に配慮することが不可欠です。必要に応じて事前に体験先を訪問し、危険箇所の検討・点検、安全対策の確認などを行い、体験活動中の留意点などを明確にしておくなどの配慮が求められます。

例えば、感染症に対する抵抗力が弱い利用者の多い幼稚園、保育所、福祉施設などで職場体験を行う場合には、生徒の感染症の罹患状況等を把握して適切な措置をとるほか、万一、事故が発生した場合に、直ちに状況に応じた応急措置がとれる体制を整えておかななくてはなりません。また、屋外や自然の中での活動が伴う職場体験となる場合には、季節や天候、地形等の状況などに十分留意するとともに、受入先の職員等の助言や協力を得つつ、特に入念な指導が求められます。

万一、職場体験の際に生徒が誤って受入先の職員等にケガをさせたり、受入先のものを壊してしまったりした場合に備え、財団法人産業教育振興中央会等が実施している体験活動賠償責任保険制度の利用を考えることも必要です。

(「中学校キャリア教育の手引き」平成23年3月 文部科学省)

